

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100141		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホームホームタウン宝木(桜)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木町2丁目2563-31		
自己評価作成日	令和1年8月22日	評価結果市町村受理日	令和1年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	令和1年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で、ご利用者様の楽しみ、体力の維持として個々人に合わせた取り組みを実施している。また、見取りケアの中でご利用者、ご家族様の思いをくみ取り支援を行っている。たくさんイベント、家族交流会を実施し、関わりを増やしている。年2回の一泊旅行(家族様の希望もあり)実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者笑顔で接し、一人一人丁寧に関わっている。利用者が落ち着きリラックスしている様子から、職員が「ともに健やかに、ともに笑顔で、その人らしく」という理念を念頭においてケアに当たっていることが窺える。訪問看護師が定期的に来所し利用者の健康管理や服薬管理をしているほか、協力医療機関の医師が月2回来てほとんどの利用者が受診している。また、同じ医療機関の協力を得て、利用者や家族の要望があれば看取りを行っており、今までに数件の実績がある。2年前に導入したパソコンソフトの24時間シートを利用することで、利用者の一日の生活の様子・バイタル・各種記録等を職員全員が共通認識できるようになり、利用者の言動の変化等から本人の希望や意向等を把握して、タイムリーに適切な対応を行っている。家族の面会時に、24時間シートから必要部分をプリントして渡し、利用者の日頃の様子を説明することもある。利用者や家族が要望していた一泊旅行を実施するなど、利用者が喜ぶことを積極的に取り入れるよう努めている。また、事業所の空きスペースを地元の様々な活動の場所として提供しており、今後の地域交流・貢献の発展につながることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100141		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホームホームタウン宝木(楓)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木町2丁目2563-31		
自己評価作成日	令和1年8月22日	評価結果市町村受理日	令和1年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	令和1年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日常生活の中で、楽しみや喜びを感じて頂けるよう努めている。個々に寄り添った外出支援、買い物、ドライブ、四季折々の行事イベント等、また見取りケアの関わりで学ぶことや家族の思いを理解し、家族とともに支援をする体制ができています。またご家族様の要望もあり年2回の一泊旅行を実施している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(終ユニットのシートに記入)</p>
-----------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設生活の中で、地域社会の一員として自分らしい生活が送れるような支援を行えるよう努めている。	法人の理念「ともに健やかに、ともに笑顔で、その人らしく」が、職員事務室と両ユニットの台所に掲示してある。理念の唱和はしていないが、日常のケアが理念に沿ったものF6:G110になっているか、申し送りや会議等の機会に職員同士で確認し合っている。職員が利用者に笑顔で接し、一人一人に丁寧に関わっている様子から、理念の実践に努めていることが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年より、デイサービスフロアの空きスペースを近隣住民へ貸し出しを実施(近隣ボランティア、協立診療所の職員研修、学習支援等)の方との接触があり、交流まではむずかしいものの、会話はできている状態です。	自治会に加入していて、利用者が時々地元の行事を見に行ったり、散歩の時に住民と挨拶しあうことはあるが、日常的な交流はほとんどない。平成29年に閉所した併設デイサービスの空きスペースを、ボランティア活動をしている住民の活動場所として、また、協力医療機関の診療所が行う職員研修や子どもへの学習支援の場として提供していて、徐々に地域とのつながりが出てきている。	空きスペースの提供により事業所に対する地域住民の理解は深まりつつあるが、こうした取組を今後住民と利用者との交流につなげ、さらに発展させていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方との交流や、学支援の協賛ということで5月よりグループホーム宝木を中心に正恵会として参加させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、奇数月1回第3金曜日を設定施設運営内容を説明し、その中でも民生員の方や地域包括の方へ配信し、参加頂いた事もあり少しづつ助言も頂けるようになりました。	年6回、地域包括支援センター職員・民生委員・利用者が集まって運営推進会議を実施している。以前は自治会長も会議に参加していたが、自治会が二つに分かれてしまっからは参加が得られていない。会議では、広報紙(年6回発行)を利用して運営状況や利用者の様子を伝えている。また互いに情報交換を行い意見を交わし、その後の運営に反映させるようにしている。	会議の開催日時を工夫したりして利用者家族の参加を促しているものの、まだ結果に結びついていない。今後も参加に向けて粘り強く利用者家族に働きかけていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは密な連絡は取っていない。	市担当課からは運営推進会議への参加を断られたままになっており、日常業務でもほとんど関わらないのが現状である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の温度差はあるものの、月1回のユニット会議にて学座的に勉強会を開催している。	月1回ユニット会議を開いているが、その時に2か月に1回は「身体拘束をしないケア」の勉強会を実施している。法人の身体拘束廃止マニュアルや各種の新しい情報をもとに、管理者がテーマを決めて講義や話し合いをすることで徹底を図っている。毎日のケアの中で利用者に対するスピーチロックを無くそうと、職員間で指摘し合うよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、ユニット会議にて勉強会を開催し、理解している。理解への温度差は多少異なる。また、外部研修等への参加も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、権利擁護の研修へ1～2名の職員が参加し理解を深め、ユニット会議にて勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学の際、ある程度の説明を実施している、ご家族様もその時は、聞く事のできないことは、後日電話にて確認をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なかなかご家族様からの要望や意見等が吸い上げることができず、面会時、家族交流会とで要望意見を頂いている。	職員は意思疎通のできる利用者からは口頭で要望等を聞き取り、そうでない利用者からは望んでいると思われることを推察するよう努めている。家族からは、面会時や年2回の家族交流会の時に、意見や要望を引き出すよう心掛け、職員間で検討してできるだけ要望等が実現できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別での面談やユニット会議での話し合いを設けている。	月1回のユニット会議は、できるだけ多くの職員が参加できる時間帯に実施しており、ケアの内容の見直しや運営面での改善意見等を出してもらい活発に話し合っている。管理者は年2回程度職員と個別に話し合う機会を設けて、悩みや意見、要望等を聞くほか、職員の様子を見て随時コミュニケーションを図るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、目標管理シート等の中でそれに沿った個々の面談を実施、やりがいを持った職場環境を整えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここに合わせた、研修や勉強会への参加を実施しており、やりがいのあるケアの実践を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等の中での意見交換はあるものの、特に取り組みとしてはできていない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所目の情報を職員間で共有し、その方に合った方法と不安にならないよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたり、ご家族様も不安な中心配している内容に対し丁寧に説明し、理解して頂くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の対応や支援の仕方を具体的に説明し、生活をしていく中で、その方にあった支援方法を提供できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士の間に入り、会話ができるよう心がけていますが、なかなか会話が弾まない時は何度も介入するよう心がけ支援させて頂いています。日常の中で、ご利用者様との距離を近づけられるよう関りを持てるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時、TELにて状況報告を行う中でご家族様が、安心して日々を過ごせるよう支援し、協力を頂けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外、殆んど関係は持つことはなく、会話の中で聞き出せるよう支援し、またご家族様からの情報を頂きながら、職員間で共有し維持できるケアをできるように取り組んでいます。	ほとんどの利用者は、隣接する理髪店の訪問による整髪をしているが、なじみの美容室に家族が定期的に連れていく利用者が一人いる。面会は家族や親族のみという場合がほとんどだが、元教師の利用者のもとに教え子だったという人が面会に来て、再会を喜び合ったことがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の関係性の把握はしているものの、利用者様の関係性や関りが上手くいくよう職員の気配り、目配り、心配りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、必要に応じ相談や支援に努めさせていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を24時間シートを利用し、職員間で共有する中で、日々の変化や一時的な行動の把握も職員間で共有し、ご家族様にも情報を提供しつつ状況に応じ、支援しています。	職員は利用者から直接聞き取ることで、希望や意向等を把握するよう努めている。また2年前に導入したパソコンソフトの24時間シートを利用することで、利用者の一日の生活の様子・バイタル・各種記録等を職員全員が共通認識できるようになり、利用者の言動の変化等から本人の希望や意向等を把握することで、タイムリーに適切な対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からの言葉や、ご家族様からの情報を頂きながら、個々に合った支援方法を取り入れ支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況変化を確認しながら出来る事、出来ない事を把握し、支援するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議等で、職員一人一人の見かた、様子を確認し、課題を解決できるよう努めています。またご家族様からの意見、要望もお聞きし介護計画へ反映させています。	介護計画作成担当者は、アセスメントやモニタリングの結果、他の職員の意見、利用者や家族の意見、24時間シートからの情報等をもとに介護計画を作成している。担当者も夜勤をしており、利用者の丸一日の生活状況を把握することで、より適切な介護計画の作成につながっている。定期的な介護計画の見直しのほか、利用者の状況の大きな変化等があった場合はすぐに見直しを行うことで、利用者の現状に即したケアの実践につながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の状況把握をする中で、突発的対応をすることが発生した場合、職員間で話し合い共有し、取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様、ご本人の状況により異なることは多くその中で、何が一番のサービス提供可能を優先し、多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や本人が望んでいることは何かを確認しながら、日常生活がより良いものになるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所にあたり、ご家族様の意向をお聞きしつつ施設での対応可能とする受診情報提供し、ご家族様の判断で決めております。	家族の意向で入所前からのかかりつけ医を受診したり、訪問診療を受けている利用者もいるが、ほとんどの利用者は近くの診療所をかかりつけ医として定期的に受診している。受診の際は、訪問看護師が記録している24時間シートのバイタルチェック表を出力して持参し、受診後もその内容や服薬情報をシートに記入するほか、申し送りノートなどで職員間の情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護の際、状態報告を行う中で、ユニット職員の気になるところを相談し、訪問看護師からDrへ確認して頂き指示を頂く。一人一人のご利用者様の状態を100%に近い報告ができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の病院へ入院となった場合、情報の共有をDr、看護師、施設、家族の連携は取れており、内容によりDrから家族、施設と情報提供があり、蜜な関係を維持できるよう努めていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に見取りに関して情報提供はさせていただいており、本にこの状態について、Drより家族へ細かい状況や、今後についての話し合いがありご家族様の思いを大切に施設でできることをの説明をさせて頂いております。	事業所では訪問診療を依頼している医師や看護師の協力のもと、これまでに数回看取りを行った事例がある。延命治療等の医療行為はできない事を入居時に家族に説明し、その上で希望した場合は看取りを行っている。職員はユマニチュードを基本とした介護の理念を勉強会で学び、医師や看護師のアドバイスによって不安を解消して、よりよい終末期の支援ができるよう努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり職員へ周知している。定期的な訓練は行っていない。随時上司へ連絡し指示を仰いでいる。今年度に消防署で実施している救命講習の受講を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練・設備点検を行っており、今年度中に訓練の実施予定。	消火・避難訓練は、消防署の立ち会いのもと夜間も含め年2回行っている。火災時の緊急マニュアルが作成されており、災害時に備えて水や食料を備蓄している。運営推進会議を通じて、災害時の近隣住人の支援を呼び掛け、事業所で行った心肺蘇生法の講習会に近所からの参加者があったことから、こうした企画を足掛かりに、支援してくれる人が増えることを事業所は期待している。	目標としていた東側ドアからの避難訓練の実施は一度行われたが、車いすを出すためのスロープ設置は実現していない。職員が試行錯誤しながら、スロープの代わりになるものを工夫しているが、非常口の段差改善が速やかに行われることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対す対応、言葉遣いを意識し行っている。職員間でも統一した対応ができるよう指導をしている。	職員は利用者を人生の先輩と捉え、敬う気持ちを忘れず接するよう心掛けている。また、利用者それぞれの生活歴や人となりを理解したうえで、利用者を不快にさせない呼び方や言動、丁寧なケアに努めている。トイレでの排泄や入浴の際には羞恥心に十分配慮し、耳が遠い利用者には、聞こえる方の耳へ口を近づけてゆっくりと話しかけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に希望を聞いたり、日々の言動、表情からも思いを汲みとり職員間で共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿えるよう努めている。職員の数・状況により難しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに関しては全員ではないが、自身で服を選んで頂いている方もいる。身だしなみに関しては、近隣の床屋へお連れしたり、施設に来て頂いて床屋を利用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者により、食事形態が違う為個々にあった形態で提供している。状況に応じて、お茶を入れ・配膳・後片付けの手伝いをして頂いている。	食事は利用者と一緒にスーパーで買った食材を使い、毎食職員が手作りしている。季節感や彩りを考え、利用者一人ひとりに合わせて刻んだりろみをつけるなどの配慮をしている。男性や若い職員も、ネットを活用するなどして料理の腕を上げ、「美味しい」と利用者には喜ばれている。誕生日にはテーブルにクロスをかけて、ケーキでお祝いし、そば打ち・月見会・敬老会の行事食は、利用者の楽しみとなっている。個人の希望で、ラーメンを食べに行くなど、外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は行っていない。食事量・水分量の把握をしている。制限等がある方に対しては目安を決めて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝は起床時、昼・夕食時は、食後に口腔ケアを実施している。週に1回訪問歯科にて口腔ケア・口腔内の状態観察・義歯調整等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についてのアセスメントを活用し、日中・夜間それぞれに適した声掛け・排泄介助を行っている。パット使用者に関しては種類なども個々の状態、様子によって変えている。拒否がある方に対しても声掛けの工夫などを行っている。	ほとんどの利用者がリハビリパンツを使いながら自力で排泄している。職員は利用者の排泄の様子を24時間シートを活用して把握し、適切な誘導ができるよう努めている。トイレ誘導の際にはそっと声をかけ、一緒に入っておしゃべりしてリラックスさせながら、丁寧な排泄介助を行っている。入居した時にはトイレでの排泄ができず、おむつやリハビリパンツも拒否していた利用者が、職員の適切な声掛けと誘導により、リハビリパンツを使用しながらも完全に自力で排泄ができるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルト又は牛乳を提供している。便秘の方に対しては、10時と15時に牛乳を提供している。繊維質の食材を調理したり、体を動かす時間もとるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯のみ固定しているが、入浴日は決めていない。入りたい時間等の希望があれば、できる限り希望に沿うようにしている。	浴室には三方向から介助できる浴槽が備え付けられており、入浴は週3回午後2時から実施されている。脚力が弱り、浴槽に入れない利用者は、職員2名でシャワー浴をしているが、基本的に一人ひとりの入浴時間は、利用者と一緒に話せる貴重な時間となっている。入浴を嫌がる利用者には、話題を変えて後からまた勧めるなどの工夫をしているが、職員の適切な誘導で風呂嫌いだった利用者が、進んで入るようになった事例がある。浴室での入浴以外に、毎朝リビングで足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由で好きな時間に好きな場所で昼寝や休息をとって頂いている。就寝時間も声をかけ、希望に沿って行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理簿や服薬チェック表を作成し、職員が内服薬・外用薬等の説明について分かるようにしている。変更があった際は随時訂正をしている。また、服薬については変化などがあつた時は、主治医に報告・相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味・嗜好などを聞きとり出来る限り、個人の好きな事(読書・家事・畑や花の水やり・余暇活動)をしてもらえるよう準備・促しを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外散歩・買い物支援・床屋へ散髪や個人での外出支援など	利用者は、天候が悪い日を除き職員と近隣を散歩したり、買い物に行ったりしている。家族の協力で、入所前からずっと利用していた美容院に定期的に通っている利用者がいる。家族や利用者の希望を聞いて、一泊旅行を行っているが、今年度はバリアフリーの露天風呂が付いた那須のペンションに泊まり、温泉と食事を楽しんだ。訪問調査の際、「楽しかった」「また行きたい」と、利用者にとってとても楽しい旅行だったことを調査員に話していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持についてはご家族と相談して許可を頂き、所持管理している方もいる。管理できない方も、施設でお預かりしたお金は自由に使える事をお話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった際は電話を掛けるなど可能だが、現在利用者からの希望がないため行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮している。季節合わせた壁面画や行事の際に撮った写真の掲示などを行っている。	建物は木目調で統一され、家庭的な雰囲気を感じさせる。リビングや廊下は広くゆったりとし、中庭があるため室内は明るい。ほとんどの利用者は日中はリビングに居て、テレビを見たりおしゃべりをしながらくつろいでいる。壁には行事や旅行の際撮られた、利用者の笑顔いっぱいの写真が飾られている。天気が悪い日は、両ユニットをつなぐドアを開けて長い廊下を散歩することができる。職員は利用者を見守りながら、室内の温度や湿度に配慮し、利用者が健康に暮らせるよう快適な空間づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間(食堂兼居間)ソファは利用者が自由に使用されている。また、暖かい日はテラスベンチが利用者様同士で過ごせる場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた家具(筆筒・ベット・寝具・仏壇・食器類)などの馴染みのある物を持参して頂いている。また、個々の状態変化に応じて必要になった物はご家族へ相談しながら対応している。	居室には洗面台とエアコン、カーテン、洋服掛けが設置されており、利用者はなじみの家具や布団などを持ち込み、家族の写真や趣味の品を飾って自分らしく整えている。部屋の前には名前を書いたプレートが下げられている。事業所から加湿器の設置を家族に勧め、冬場の体調管理に努めている。配置の関係で日当たりが悪くなっている部屋は家賃が安く設定されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室には表札を下げ、トイレの場所など分かるような掲示がされている。浴室などは職員が説明をしている。		